

# 人間の罪と神の憐れみ

2021年7月11日

詩篇 106篇

序：悔い改め

何を？ 罪、不義  
誰に？ 神に 人間にだと謝罪、お詫び

★罪のリスト マルコ 7・20～23

人から、人の心の中から、内側から出る  
人以外の被造物からは出ない（彼らは人間の罪の巻き添えとなって虚無に服す  
お払いできよめられない（外から来て、人の外側に付着したものを払い退ける

悪い考え（食欲 欺き ねたみ 高慢 愚かさ）  
淫らな行い（姦淫 好色）  
悪行（盗み、殺人、ののしり）

★肉のわざのリスト ガラテヤ 5・19～21 ⇒ 神の国を相続できない

淫らな行い 汚れ 好色  
泥酔 遊興  
偶像礼拝 魔術  
敵意 憤り そねみ ねたみ 争い 党派心 分裂 分派

★罪人のリスト 黙示録 21・8 ⇒ 永遠の死

憶病者 不信仰な者 忌まわしい者 人殺し 淫らな行いをする者  
魔術を行う者 偶像を拝む者 すべて偽りを言う者

詩篇 106篇

I. 歴史の中の罪と救い

(1) 認罪（先祖と同様）（エジプトで） 6～7節

罪・不義・悪を行なってきた  
みわざを悟らず  
恵みを思い出さず  
紅海で逆らった

(2) 贖い・救い 8～12節

御名のゆえに（ご自分の栄光のため）  
ご自分の力を知らせるために（海干上がる、敵全滅）

みことばを信じた 主への賛美を歌う

(3) 忘恩・自制を欠く 13～15節

御業を忘れ、さとしを待ち望まない  
激しい欲望 神を試みた

⇒ 肉の必要は満たされたが、いのち（霊）は衰えた

(4) ねたみ 16～18節

主の聖徒 モーセとアロンへのねたみ

⇒ 地に飲み込まれた 火で焼き尽くされた

(5) 偶像礼拝 19～23節

子牛を作り、拝んだ  
神の栄光を取り替えた  
救い主を忘れた

⇒ 主の仰せ：彼らを根絶やしにする  
モーセのとりなし

(6)主に抗弁 24～27節  
与えられた地を蔑んだ  
みことば不信  
不平 御声を聞かない

⇒ 荒野で打ち倒され、国々に散らされる

(7)異邦人の風習に倣い、ともにあずかった 28～31節

⇒ ピネハスのとりなし（主のこころを自分の心とした：彼の義）

(8)主の御霊に逆らった 32～33節  
主を怒らせ、モーセに災いを被せた メリバの水

(9)異邦の民に同調、主の命令に背く 34～39節  
諸国の民を聖絶せず、残した → 畏（交わり、ならい、神々仕えた）  
悪魔・悪霊礼拝（人身御供）＝ 殺人  
靈的姦淫、肉体的姦淫

## II. さばきと救い

(1)主の怒りによるさばき 40～43節  
主の怒りが燃え上がった  
選びの民を忌み嫌った  
異邦人に渡し、その支配下に置いた（虐げ、征服、捕囚）

⇒ 主の度重なる救出にあずかりながら、共謀して主に逆らい不義に溺れた

(2)主の忍耐、あわれみ 44～46節  
彼らの叫びを聞く 彼らに目を留められた  
契約を思い起こし、恵みにしたが、彼らをあわれまれた  
征服者たちからさえ、あわれまれるようにされた

## III. 神への嘆願 47～48節 1～5節

永遠から永遠までイスラエルの神、主よ

(1)お救いください  
(2)集めてください

目的：御名に感謝し、主の誉れを誇るため アーメンと唱和  
慈しみ、恵み、大能のわざ

さばきを守る人、正義を行う人の祈り

(1)御民を受け入れてください  
(2)心に留め、救ってください

## IV. 罪の悔い改め

出エジプト（回心）以後  
罪のリストに照らして  
示された罪は、主に告白して、赦しときよめをいただいて、前進  
寄せては返す波のような、人間の罪と神の赦し（神の愛の勝利）  
神を神とし、罪を罪と認め、罪と縁を切る

内側（心）⇒ ことば ⇒ 行い  
基準は神のみことば（永遠・不変）  
この世の基準（移り変わり、一時的）

父（神）と子（信者）、主人（神）としもべ（信者）の関係が喜ばしく  
健全に保たれる秘訣は偽りのない交わりにある

イザヤ 55・6～7